

令和4年度 上田市立本原小学校 自己評価シート(職員)

学校教育目標	めざす子ども像
なかよく たくましく かながえて	○ 一人一人の子どもの理解を深め、つながりを大切にする学校
	○ 子どもが学ぶ喜びを感じ、安心・安全で、あたたかな学校
	○ 子ども一人一人の学びを保障し、考える力・伝える力の伸長を目指す学校
	本年度の重点目標
	なかよく: ○明るい挨拶・返事の定着 ○人と「人・こと・もの」がつながる活動 ○個性を発揮し認め合う学級づくり ○安心できる人間関係づくり ○人権感覚を高める活動 ○やさしく話し、あたたかく聴く ○歌声の響き合う学級・学年 ○子どもと向き合う時間の確保「のびのびタイム」 ○児童会活動や地域との交流 ○原っ子育成地域かきゅうの実施 ○「原っ子応援団」との連携
【令和4年度の基本理念】 「わくわくどきどき、学ぶ喜びを感じ、明日を楽しみに来る学校」	たくましく: ○心を磨く清掃「無言清掃」「見つけ清掃」「感謝清掃」 ○係活動など周りのために役に立つ活動の継続 ○ねばり強く取り組む意欲の育成 ○健康・安心・安全の意識育成と徹底 ○運動集会の充実 ○季節ごとの重点運動への取り組み ○体力テストの実施と結果分析 ○外遊びの奨励・充実 ○校庭での運動会や持久走大会
	かながえて: ○日常的な授業の充実・学力向上 ○学ぶ楽しさ・学習意欲を喚起する授業づくり ○授業のユニバーサルデザイン化 ○本原小授業スタンダードの取組 ○「じっくり考える」「考えを文章や図にまとめる」「心を傾けて聞く」この3日常化 ○繰り返しの学習による基礎基本の定着 ○SKM(すべての子どもの学び)の充実授業と習熟度の配慮 ○一人一台端末の活用

分野	重点活動	学校評価の中核的観点
教 育	なかよく 一人一人の子どもを大切に 学級づくり・学校づくり	○子ども同士、子どもと教師が人権感覚を磨いているか。(あいさつ、あたたかなことば遣い等)
		○子どもが自己肯定感を高めているか。(自分が好き、自分に自信がある、自分でがんばる等)
		○いじめや不登校を解決に導き、楽しい学校づくりができたか。(いじめを見ぬく、長期欠席に真摯に対応する)

総 合 評 価		
○自分からあいさつをできる子が増え、朝の廊下がとても気持ちよく感じる。子どもたちもそのことを実感しているように思う。 ○あいさつするとき、一言添えて、顔を見て気持ち良くあいさつする子どもが増えてきたように思う。 ●学習に関しては、その場では粘り強くながえいても、家庭に帰ると諦めてしまう声も聞かれるため、引き続き、「もっと知りたい」「もっとわかるようになりたい」「勉強が楽しい」と感じてもらえるような授業作りをしていきたい。「分かった」「できた」の積み重ねが自己肯定感にもつながっていくと思うので、もっともっと褒めて、できているところを認めること、できなくても頑張る姿勢を認めることを意識的に取り入れていきたい。		
評価	成果と課題	改善策・向上策
A	○学年関係なく声を掛け合ったり、遊んだりする姿が見られた。 ○友達おしの大きなトラブルが少なく、他校の様子と比べて、明るく、人間関係の問題も少なかった。 ○米作りや吉木小との交流などを通して、子どもたちの成長が見られた。 ○体調不良やけがをした友達に、「大丈夫?」「お大事に」と声をかける児童が多いが、挨拶は声が小さかったり返さなかったりする。 ○今日の主役を決め、その日1日はその子の良いところをみんなで見つけて伝える取り組みを1年間継続してきた。個性を認め、しかし迎合しない雰囲気できてきたと思う。 ○カウチセンシングマインドをもって接することができた。 ●あいさつがなかなか広がりいかなかった印象があります。できる子は更にできるように、できなかった子も減ってはきているが、素通りする児童もあり、課題が残ったように感じます。 ●挨拶できるようになった子をこれからも、しっかり認めていくことが大切だと思います。 ●相手に対する言葉遣いが悪い。 ●決まっているあいさつはだいぶできるようにってきているが、その時に合ったあいさつや返事が出来るようになるとうい。(お客さんがいらしたときなど)	・様々な交流を通して、相手意識をもった表現の仕方を学ばせたい。 ・授業を楽しくするなど授業を中心に改善していきたい。 ・休み時間にもっと話をするようにしたい。 ・児童会のあいさつ運動の中で、相手を意識した挨拶(○○さんおはようございます)を呼びかける。
	○体育的な行事も計画的に行えてよかった。昨年度より持久走大会で歩いている高学年が減ったように思えた。 ○元気に外で遊び子ども多い。 ○委員会活動、縦割り班のバレー、水やりなど、責任をもって取り組めた。男子がサッカーを朝から放課後まで、頑張っていてやっている。 ○季節ごとに運動に楽しみ、体を動かすことが楽しめたと思う。 ○1年生は、4月のことを考えるとよく清掃に取り組むようになった。 ●無言清掃は、学年、学級によって差があった。やるならば、全校でしっかりと取り組みたい。 ●無言清掃や見つけ清掃ができない子がいる。 ●昼休みの終わりを放送とともに戻らずに掃除に遅れていく児童がいるので、そこは全校でしっかりと取り組んでいきたい。	・本校の児童の体力、運動能力はどうか、5年生の体力テストの結果党から共通認識できるとよい。 ・もくもく清掃を増やしたい(学年に応じて) ・一人一人の話をじっくり聞き、できるだけ自分の言葉で話そうにさせる。前向きに取り組めたことを子どもと確認しながらめる。 ・清掃の仕方については課題が多い。無言清掃・見つけ清掃など分かっていない子もいるため、確認が必要。
B	○学方面での中・低位児童への指導や支援に皆力を入れている。 ○発見すること、考えること、書くこと、そして聴くことを大切に授業づくりを行った。 ○クロムブックの活用が進み、日常的にノートや教科書と同じように使えるようになった。毎時間必ず、学習問題、まとめ、振り返りのボードを使うようにしたこと、基本的な授業の形が整った。 ●基礎基本を大事にしている半面、発展的な応用問題などを扱うことが各学級ですくなくなっているのではないか。上位の児童の伸びがどうか疑問。CRTなどで高得点を取れる児童が少ないように思う。 ●一人一台端末が十分活用できていない	・学ぶ楽しさを中心に改善し、心を傾けて聴ける児童を育てていきたい。 ・本原小授業のスタンダードを定期的に確認して、定着していくように進めていくのがいい。 ・chromeブックの活用法を研修する場がほしい。 ・一人一台端末の使用についてはもう少し研修や研究が必要。 ・クロームブックを有効活用するためにも、自分自身も使い方を知るようになる。
	○あいさつの良さや大切さは授業でも扱い、大切にした。 ○良さを認めつつ、好ましくない行動には流されない力がついた ○自分からあいさつをする子、委員会のあいさつ当番に元気にあいさつを返す子など、明るいあいさつが増えている。友達同士のあいさつをもう少し広げたい ○顔を見たときに「おはようございます」と言える子が多い。 ●差別的な行動はないが、言葉遣いが乱暴な子が気になる。 ●あたたかな言葉遣いについては引き続き職員間で気を付けていきたい。	・声の大きさは課題。また廊下で大声で騒ぐなど他者意識は伝えていく必要があると感じた。
B	○頑張った友達を認める姿はたくさんあり、照れながらも受け入れているように見えた。 ○頑張っている過程を褒めるように声がけした。 ○「自分でやるから、できるからいい」と支援を断る児童の姿が見られるようになった。(特別支援) ●自分に自信がある子が少ない。しかし、自信がもてないのではなく、もっと頑張らなくちゃという気持ちから、「今の自分が好き、自信がある」というアンケートの問いにNOという子もいる。	・謙虚な子が多い。できていることを大げさに認めるだけでなく、もう少し手立てが必要だったと感じた。 ・自分が好きになるように、自分を見つめる機会をつくる。 ・スモールステップで取り組むことが自己肯定感をもつことにに対して有効である。
	○不登校児童の対応にかかわっている先生方は、丁寧に対応していると思う。むしろ保護者がどのように児童の現状を理解し、どのように対応するのか、ということの方が問題だと思う。 ○子ども達の声に耳を傾けることで困っていることを早めに把握できた。 ○登校渋りに対して、学校職員全員で対応することができた。 ○登校しぶり児の居場所づくりに協力できたことがあった(特別支援)。 ●断りなく文房具などを持っていったり使ったりするところを見かけたときは、持ち主・借主それぞれに声がけをした。持ち主は我慢しているように感じ、借主は借りる意識が低いと感じた。	・一部の子どもへの支援の仕方が難しい。人間関係にまつわるSSTなどクラス全員で定期的に行えるようにしたら少しずつ変わっていくのかもしれない。 ・特別支援学級がいつでも使えるわけではないが、学校にきたいけど行きにくいという子どもの気持ちに寄り添えるように希望があれば検討はしないといけないと思う。 ・年度当初の筆記用具の確認を、学期ごとなど定期的に保護者と連携しながら行う。

活動	たくましく		○健康への意識を高める工夫ができたか。(保健体育・外遊び・運動集会の充実) ○安心・安全な生活環境づくりの工夫ができたか。(保健指導、環境整備) ○清掃や係活動など働くことに積極的に取り組めるよう働きかけているか。
		かんがえて	○「かんがえるくん」(もっとかんがえるための掲示)の活用等、考えを深める授業を工夫しているか。 ○「つたえちゃん」(心をこめて伝えるための掲示)の活用等、対話したり思いや意図を話したりする授業を工夫しているか。 ○すべての子どもの力を更に伸ばすような授業実践をしているか。(ユニバーサルデザイン化、教室環境、教材準備等)
			○様々な教育活動・体験活動を通し、豊かな心の育成 ○「原っ子応援団(学習支援ボランティア)と連携し、地域に根ざした活動の場を設け、体験活動が充実したているか。 ○児童会活動、縦割り班等の交流を通して、積極的に体験活動できるよう工夫しているか。
学校運営			○学校だより、学級・学年だより、安心・安全メール、ホームページにより情報を伝えているか。 ○連絡帳、電話などで保護者と連絡をとり、信頼関係を深めているか。 ○学校内外の相談体制の周知、受け入れ体制の整備を進めているか。

評価　A…達成できた　B…おおむね達成できた　C…やや達成できなかった　D…達成できなかった

	○児童会で行ったクラスごとに体育館で遊ぶ活動は、高学年も楽しく取り組めた。寒い季節に体を動かす時間を設定できよかった。 ○運動集会で扱ったことを授業や休み時間に継続している姿があった。 発育測定終わりに保健室で話してもらうことで自分の心の持ち方など向き合える児童が多かった。 ○清掃や係活動は、自分の役割に責任を持って取り組めるようにした。 ○時間いっぱい清掃する姿もいたところで見られた。 ●トイレ掃除と一緒にやるようにしたが、児童だけになるとどうしてもおろそかになってしまった。 ●安全な生活環境としては、緊急時の集団下校に対するの職員の動きや児童の気持ちのもち方が不十分に感じた。	・児童会と共同した活動を計画する。 ・遊び場所のルールについては学級ごと振れ幅があった。もう一度確認したことがいいと思うことも多い。 ・なわとび、筒けんなど、授業等で接して興味を持ったことを休み時間に楽しもうとする姿があるので、授業や運動集会等でさまざまな運動遊びや体を動かす楽しさを体験できるようにしたい。 ・きれいになるまで掃除をする時間の確保。 ・清掃用具の工夫(トイレの雑巾がけがうまくできないならトイレワイパーのようなものを使ったほうがよいのか?) ・清掃の仕方でも無言清掃なのかどうか不明な点が多かった。そろえるところは揃えて指導できるように、職員の意識をそろえたい。 ・緊急事態にスムーズに下校できるように、年間通して水曜日の5時間授業の日は地区別下校をするように思う。そうすると誰と一緒なのか、児童館利用児童はだれかの確認がスムーズになる。また、班長は早めに出るという意識をもてるように言葉をかける。
B	○考えることの良さ、おもしろさを伝えるようにした。 ●「かんがえるくん」「つたえちゃん」についての共通理解ができていない。3年前にきたときにも、何の説明、引継ぎもなかった。活用するならば、しっかり位置付けて、共通の認識の上で活用したい。(研修など設けて) ●キャラクターは使っているクラスを見かけなくなりました。考えを深める授業はなされていると思います。	・ほとんど使えなかった。 ・キャラクター(掲示物)も扱いはなしを含めて検討。
A	○発言の大切さは、ことあるごとに伝えた。しかし、発言がすべてではないことも伝えてきた。 ○対話や話し合い、考えをつなげていく授業を意識し、伝える力がついた	・ほとんど使えなかった。
B	○導入に力を入れることで子ども達の学習意欲が高まった。 ●ユニバーサルデザインなども少し取り組みたかった。	・ゆっくりな子が落ち着いて学習できる環境については整備が必要。 ・特別支援級を一時的に利用する子が増えているが、ルール作りが必要。 ・ユニバーサルデザインなどももう少し研究し授業の中に取り入れていきたい。
B	○大豆づくりではボランティアの方と協力して取り組めた。 ○年間を通して大豆作りの学習を継続し、地域と連携できた。 ●応援団の方との連携の機会がなかった。 ●来年度はもっとボランティアの方をお願いして活動が充実できるとよいと思う。	・コロナのこともあり、ほとんどかわりを持てなかった。
B	○手洗い実験をし、洗い残しを目で見る活動を行った。全校へ呼びかける内容が具体的になった。 ○制限された中でできることを考えて活動できた。 ●今の現状では難しかった ●もっと活動が活発になるとよいと思う。	
B	○学年だよりで毎週ようすを伝えている。学級だよりまでは、手が回らないのが現状です。 ○しっかりと発信していただいている。 ○学年だよりでは、学年で取り組んでいることを紹介できた。 ○(係のおたよりについて) 毎月の発行はできなかったが、おおむね学校行事等に合わせた発信ができた。 ○学年だよりなど毎週発行し情報を伝えることができた。	・校内や児童の様子に触れる内容を増やす。 ・安心・安全メールが届かないという話を聞くことがあり、もっと確実なシステムにした方がいいと感じた。
B	○保護者と書類でやり取りするときに、一言添えるようにした。 ○普段の様子を伝えたり、頑張ったことがあった日にはその日のうちに電話をかけた。たりした。 ○連絡帳、日記、提出物や作品へのコメントを丁寧にし信頼関係を深めた ●特別な連絡があるときだけ、連絡帳、電話での連絡。参観日など少なくなつて直接会う機会が少なく、直接お話できないケースもある。	
B	○カウンセリングの実施通知を家庭配布して児童・保護者の相談の機会として紹介し、担任の先生方からも個別に声をかけていただいた。 ○スクールカウンセラーの先生に入ってもらっていただき、話を聞いてもらうことで気持ちを落ち着けることができる児童がいた。 ○外部の方に入ってもらう支援会議が増えた。	・支援学級の判断など、もう少し学校の立場とは違う人から見てもらったり、話してもらったりできる体制が欲しい。